平成 30 年 1 月 12 日

東京ブロック　山口　尭彰

U-32 Young Officials' Camp 2018 参加報告書

１．日程：平成 30 年 1 月 5 日（金）～1 月 6 日（土）

２．会場：浦安市運動公園総合体育館

３．参加者：30 名（男性 22 名、女性 8 名）

４．スケジュール・研修内容

初日　1 月 5 日（金）

９：００～	開講式
９：１０～	講義①　「YOC について」　平育雄氏 講義②　「3PO メカニクス」　上田篤拓氏 講義③　「エリートレフェリーに必要な要素」　加藤誉樹氏
１２：００～	実技研修　（B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018 予選リーグ） 講師　平育雄氏　片寄達氏　佐藤誠氏　加藤誉樹氏　漆間大吾氏　上田篤拓氏
１９：００～	コート研修「3PO メカニクス」　上田篤拓氏　加藤誉樹氏　漆間大吾氏

内容

まず初めに、平氏より U-32YOC の目的をお話しいただきました。若年層からの FIBA レフェリーの育成が大きな目的であり、ライセンス制度や国際審判員に必要な要素（年齢・国内資格・体格・人物等）を具体的に示していただきました。また、日本の TOP レフェリーの育成も併せて行っていくプロジェクトであるということでした。

上田氏からは「3PO メカニクス」について講義していただきました。3 人で 1 つのクルーとして試合を担当していくうえで、正しいメカニクスの理解が非常に重要になってくるということでした。現在トップリーグでも導入されている様々な用語について解説していただきながら、プライマリエリアとプライマリアングルについてのお話やボールのアクセプトとリリース（チェックイン、チェックアウト）を意識することで、スムーズなローテーションにつながることなど、映像を用いながらわかりやすく解説していただきました。

加藤氏からは「エリートレフェリーに必要な要素」について講義していただきました。レフェリーとして正しい判定を下すことと同じくらい「見せ方（プレゼンテーション）」が重要であるということでした。上のレベルになればなるほど、選手同士では判定できないぎりぎりの部分が多くなってくるため、だからこそレフェリーの判定が必要になり、その判定を下す中でのプレゼンテーションによって、周囲の印象が変わるということでした。私自身のプレゼンテーションに対する意識が如何に甘いかを痛感するとともに、FIBA レフェリーをはじめ、日本の TOP レフェリーの方々は、判定だけでなく、細部にまでこだわってレフェリングを行っているのだと改めて感じることができました。

実技研修では、B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018 の予選リーグ、8 分×2 を 2 セット担当しました。講師の平氏からはトレイルの見方についての反省をいただきました。2PO とは違って、リードと同じエリアを見ても意味がないため、トレイルに関してはもっと縦を意識してポジションアジャストしていくことが重要ということでした。また、加藤氏からは 3 人の動きをもっと連動させていくことが必要であるという反省をいただきました。さらに、ファウルの現象が起きてからワンテンポ遅れて笛を入れることも一つの技術としてあることも教えていただきました。そうすることで、周りからもわかりやすくなることやファウルをコールした後にパスをさばいてショットが決まってしまったなどの現象も防ぐことができるということでした。

コート研修では、上田氏より、本日の実技研修での全体的な改善点について説明していただきました。リードはコーナー付近のショットに対しては、ポジションをパラレル（平行）にして見る必要があることやボールのアクセプトとリリース（チェックイン、チェックアウト）をわかりやすくし、スムーズなローテーションにつなげるためには、ポジションアジャストが必要になってくることなど、コートを使ってわかりやすく教えていただきました。最後に、加藤氏、漆間氏のプレゼンテーションを見させていただきました。我々のプレゼンテーションとは全く違い、特に声をしっかりと使っていることが印象的でした。FIBA レフェリーのプレゼンテーションを肌で感じることができ、翌日以降のモチベーションアップにもつながりました。

２日目　１月６日（土）

９：００～	ワークショップ
１１：００～	実技研修　（B.LEAGUE U15 FRIENDLY GAME 2018 決勝リーグ） 講師　　関口知之氏　平育雄氏　有澤重行氏　堀内純氏　細田知宏氏　上田篤拓氏
１７：００～	閉講式

内容

ワークショップでは、B.LEAGUE 川崎 VS 千葉の試合の映像を用いて、割り当てられた箇所をグループごとに「Mechanics」「Presentation」「Judgement」の３つの観点から分析し、英語でディスカッションした後、発表をするというものでした。グループディスカッションを通して、私自身の英語力の未熟さを実感しましたが、未熟な英語で自分の意見を伝えるためにはどうすればよいのかを学ぶことができました。また、グループ発表を通じて、人に何かを伝えるためには、もちろん英語力も必要であるが、それ以上に伝えようとする気持ちやボディランゲージが大切であると感じました。現在なかなか英語で話す機会がない中で、このような経験ができたことは私にとって非常に貴重な経験となりました。今後、英語力を磨き、どのような選手、コーチ、審判員ともしっかりとコミュニケーションが取れるようにしていきたいと思います。

実技研修では、前日にいただいた反省を意識して、決勝リーグ８分×２を４セット担当しました。講師の平氏からは、もっとオートマチックにローテーションを行ったほうが良いという反省をいただきました。また、３人での協力という意味でもラストのゲームクロックを誰が持つのかの確認やお互いにチームファウルに対するシグナルを出し合うことなどが必要ということでした。講師の細田氏からは、ローテーションのタイミングや何もない試合の中でどのようにしてレフェリーとしての存在感を出していくかという反省をいただきました。リードはもっと積極的にローテーションを行うこと、コフィンコーナーあたりでディフェンスがプレッシャーをかけた場合は、センター主導でローテーションを行う場合もあること、レフェリーとしての存在感を出していくためには、コールはもちろんだが、走り方やディレクションなどを意識するとよいとのことでした。また、堀内氏からは、一つのプライマリーを超えた判定によって、相手レフェリーのメンタルを乱すこともあることを教えていただきました。そのために、相手レフェリーが鳴らないのを確認してから、遅れてコールするという技術も必要になってくるということでした。

５．U-32 Young Officials' Camp 2018 に参加して

私自身、今回が初めての早期育成プロジェクトへの参加であったため、学ぶべきところが多く、非常に貴重な経験になりました。また、FIBA レフェリーへの可能性を持つ全国の若手審判員の方々と共に今回のプロジェクトに参加できたことによって、モチベーションアップはもちろんのこと、全国へネットワークを広げられたことは非常に大きな収穫となりました。また、２日間を通して、数多くの講師の方々からお話をいただく中で、私自身の審判活動に対する取り組み方が如何に甘いかを痛感しました。世界、日本の TOP レフェリーの方が１つのゲームに対してどれほどこだわっているのか、映像を活用してプレイの中身を分析し、次のレフリングにどう生かすのか等、自身の今後の活動に対するヒントを与えていただきました。トップレベルを常にイメージしながら、目の前にある今できることに全力で取り組んでいく所存です。さらに、英語のワークショップや講義を通じて、これから先、上級審判員として様々なカテゴリーの試合を担当させていただく中で自身の英語力の強化が非常に重要になってくると感じました。レフェリングを磨くとともに、英語力の強化も併せて行っていきたいと考えております。

最後に、今回の研修に対してご尽力いただいた日本バスケットボール協会の方々をはじめ、講師の方々、推薦していただいた久保ブロック長に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。